

新臨床栄養学 第2版

馬場 忠雄, 山城雄一郎 編/雨海 照祥, 佐々木雅也, 宮田 剛, 島田 和典 編集協力

長年のライバルによる,
画期的な医家臨床栄養学テキストの今日的大改訂

高知医大名誉教授

小 越 章 平

このたび医学書院より、『新臨床栄養学』が6年ぶりに改訂になり刊行された。本書は馬場忠雄先生ならびに山城雄一郎先生が中心となり、それに若手というより現在、旬のベテラン4人が編集協力者として加わって全面改訂が行われ、第2版として刊行に至ったことに、まずはご同慶の至りと心よりお祝い申し上げる。

初版は紹介するまでもなく、故岡田正先生の孤軍奮闘の力作であり、当時は少なかった医家向けのスタンダードを目指したテキストで、かなり画期的と言えるものであった。栄養学にとってのこの30年は、高カロリー輸液、そして経腸栄養は成分栄養法を中心として方法論はもとより、その臨床効果は「抗生物質に並ぶ20世紀最高の治療手段」といわれ、重症患者の管理には不可欠のものとなった時代である。今から振り返って、当初臨床栄養学の全般を網羅するこのような教科書を完成させたのは、全く岡田先生の情熱のほかの何ものでもないと感じさせられる。

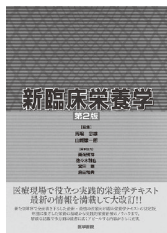
私事であるが、図らずも岡田先生と評者は年齢も近く、同じ時期に米国留学(岡田先生はミネソタ大学、評者はペンシルベニア大学)を経て、帰国後の研究も「外科栄養」の仕事であった。やはりお互い意識せざるを得なかったであろう(その辺の事情は、以前に岡田先生の追悼文集にまとめて書いた「静脈・経腸栄養の発展を思い出すままに」[『岡田先生の思い出』ジェフコーポレーション刊、2011年]を参照していただきたい)。

岡田先生と評者はよく対比され、当初より「西の岡田、東の小越」「静脈栄養の岡田、経腸栄養の

小越」「外科代謝の岡田、JSPENの小越」などと時代の流れとともに呼ばれたようである。先生が本書の第1版を企画されたころは、まだ当時のそうしたライバル意識が残っていたためか、評者の「エレメンタル・ダイエット」関係、「栄養アセスメント」関係の仕事についての文献引用もわずかにとどまっていた。しかしその後はお互いの仕事をよく理解するに至り、学会での無二のライバルであり、親友となった。

私事の話が多くなったが、今回の第2版の改訂は岡田先生が当時から、30余年後の今日のこの領域の発展を見越していたかのような、さらなる内容の充実を図り臨床栄養の理論と実践を学生、一般医家にも良く理解できるように、全てを漏れなく取り上げている。

改訂を受け持たれた馬場先生、山城先生はじめ、また編集協力者の先生たちの御努力に敬意と謝意を表したい。間違いなく理論だけでなく日々変化する実践的栄養管理テクニックのテキストとして多くの医家、学生、NSTに興味をもつコ・メディカルの方々に薦められる。そして日進月歩の変化に即した今後のきめの細かい改訂を希望するものである。



●B5 頁792 2012年
定価12,600円
(本体12,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-01615-5]
医学書院刊(☎ 03-3817-5657)